

♫ ジョイントコンサート '95 ♪

ボン室内合唱団

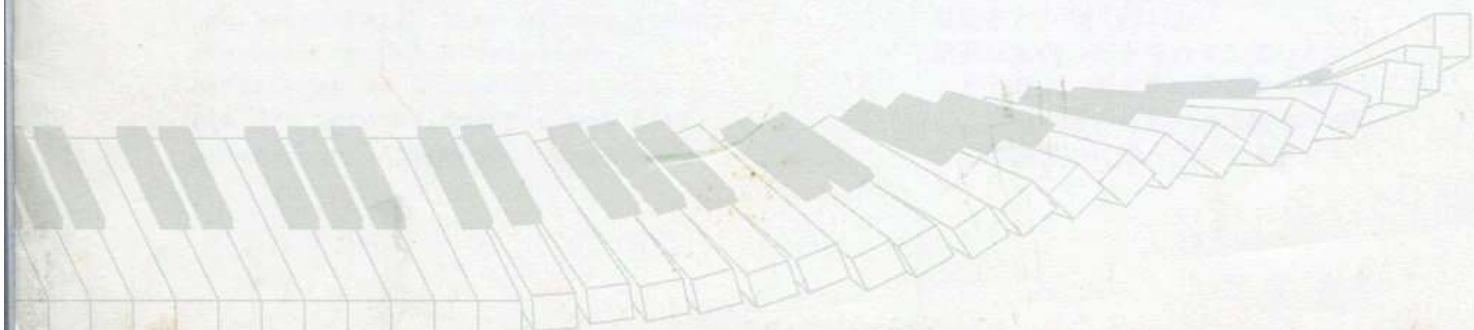
Bonner Kammerchor - Collegium Cantorum

京都混声合唱団

と き : 1995年 4月 8日(土) P.M. 6 : 30

と ころ : 京都こども文化会館 〈エンゼルハウス〉

主 催 京都混声合唱団 後 援 関西ドイツ文化センター



京都混声合唱団
常任指揮者 蔵田 裕行

ドイツ・バロックの古都 ヴュルツブルクから、アルプスの麓、ノイシュバンシュタイン城の町 フェッセンまで続くロマンティック街道に対し、数々の伝説に包まれたライン河の、マインツからコーブレントのロマンティック・ラインと名付けられた区間の少し下流にボンは位置している。統一前の西ドイツの首都と云うことから受ける華やかなイメージとは異なって、意外なほど地味でつつまじやかな都市である。我々には首都と云うより先に、ベートーヴェンの生地であり、又、シューマンの終焉の地と云うイメージが浮かんで来てしまう。だからと云ってボンを音楽の都と位置づけるには、少々無理がある。地方分権制度の確立したドイツでは、どの都市も独自の雰囲気と魅力をもっているが、ボンを一言で云うならば、大学都市と云うことが出来るだろう。それは首都であった昔も、首都をベルリンに譲った今も変わらない。つまりボン大学である。そのボン大学を核としたボン室内合唱団が来日、京都では京混とジョイントコンサートを持つことになった。

送られて来た紹介記事を見て驚いた。これは殆どプロの合唱団と云っていいのではないか。各地の国際合唱コンクールで1位、2位と云う赫々たる成果を上げた上、ヒリアード・アンサンブルとも共演し、今春にはCDも出すと云う。レパートリーも大変多岐に亘っており、全てア・カペラと云うのも素晴らしい。普段聴く機会の少ない埋もれた名曲の数々を、聴かせていただけるのはとても嬉しい。

一方、京混はブラームスの「Nänie（哀悼歌）」と、新実徳英の「花に寄せて」でステージを務めさせていただく。「Nänie」では逝きしものへの哀悼の念と同時に不滅なるものへの賛美と信仰を（阪神大震災で失われた尊い命への哀悼の念と共に、その後、人々の見せた不屈の闘志と美しい善意への賛美をこめて）、「花に寄せて」では手足の運動機能を失いながらも、口に筆をくわえ、素晴らしい詩と画を生み出した感動の人、星野富弘さんの純な心を精一杯歌い上げたいと思う。

ボン室内合唱団を迎えてのジョイント・コンサートと云うより、我々がボンに遠征して彼の地で演奏会を持ち、お客様もそれに帯同してボンでこの演奏会を聴いている…そんなイメージをふくらませることが出来る音楽会になればいいなあ!!…とそんなことを思っています。

今日は御来聴有り難うございました。

1995年4月8日

プログラム

第1部 ボン室内合唱団

指揮 Peter Henn

- 2つの4声合唱のためのミサ曲（1928年）よりクレド : F. Martin
ミサ・ロム・アルメ（1502年）よりアニュス・デイ : J. Desprez
街はかくも荒廃し : R. Mauersberger
アイヒェンドルフの詩による6つの宗教歌より : H. Wolf
「来たれ静けき夜、この世の慰めよ」
ソロモンの雅歌（1606年）より : L. Lechner
第5番「私はシャロンの谷の花」
第6番「あの狐を捕らえよ」
ソロモンの雅歌によるモテット「シャロンの谷の花」（1979年）より : J. Baur
第3番「私はあなたの愛のあまりに消え入りそうだ」

第2部 京都混声合唱団

指揮 蔵田裕行 / ピアノ 宮北昌子

- 哀悼歌 : J. Brahms

休憩

第3部 ボン室内合唱団

指揮 Peter Henn

- 聞け、愛の神々よ : T. Weelkes
神のご加護あれ : L. Lechner
おお春よ、1年の始まりよ : H. Schütz
そなたはかくも麗しい、神の子よ : E. Grieg
私は夜夢を見た : M. Reger
月は昇りぬ : M. Reger

第4部 京都混声合唱団

指揮 蔵田裕行 / ピアノ 宮北昌子

- 混声合唱組曲 : 作詩 星野富弘
「花に寄せて」 : 作曲 新実徳英
たんぽぽ／ねこじゃらし／しおん／
つばき・やぶかんぞう・あさがお／てっせん・どくだみ／
みょうが／ばら・きく・なずな 一母に捧ぐー

第5部 合同演奏

指揮 Peter Henn

- 二人の天使が呼びかわす : S. Scheidt

指揮 蔵田裕行 / ピアノ 宮北昌子

- 朧月夜 : 作詩 高野辰之
: 作曲 岡野貞一

曲目解説

〈第1部〉

ヨーロッパの音楽において、ミサ曲というジャンルは量と質の両面で極めて重要な意味を持ちます。フランク・マルタンとジョスカン・デュプレのミサは、ミサ曲の歴史の中の2つの頂点と言えましょう。

「クレド」（信仰告白）は、2つの合唱の響きが明確な対照を成し、ソロ的な声部と伴奏的な声部が交替し、伝統的な表現手段に依拠するかと思うと他方で大胆極まる表現も用いるなど、マルタンの作曲様式の重要な特徴を典型的に示しています。

ジョスカン・デュプレの「ミサ・ロム・アルメ」は多声音楽と教会カノンの模範とされているがそれだけで技巧に流れず聴く者の心を捉える作品です。

「街はかくも荒廃し」は1945年のドレスデン大空襲の強烈な印象を元にエレミア哀歌のテキストに作曲されました。第2次大戦末期のドレスデンの運命は当時の広島や長崎、そして最近の神戸の悲劇に通じるものです。今宵ボン室内合唱団はこのモテットを阪神・淡路大震災の犠牲者に捧げます。

「アイヒェンドルフの詩による6つの宗教歌」は音楽と言葉が完全に一体化しています。

「ソロモンの雅歌」レヒナーにおいては各声部の動きはポリフォニックであると同時に自立的で表現力豊かです。パウアーの作品は響きの豊さと構成の厳密さとの、また即興的な外見と完成された様式との間の絶妙のバランスによって聴く人を魅了するでしょう。

〈第2部〉

「哀悼歌」はエレジー（挽歌）の詩型である連句形式を用いていますが、挽歌的というよりむしろ讃歌的で、慰めをわかち与えるのみならず死をものりこえて生き続ける使命をもった芸術への尊敬の念を表わしています。「美しきもの、完全なるものも死をのがれることは出来ない。しかし愛されたものの口の端にのぼって哀悼の歌として歌われることもすばらしい」

〈第3部〉

「聞け、愛の神々よ」はヴィラネッタ（1番、2番と同じ旋律が繰り返される）で、リフレーンの付く舞曲風の歌です。レヒナー、シュッツの作品もバロック期の様々な愛の歌のタイプを表わしています。

「私は夜夢を見た」は同じ旋律の繰返しがない形式を取り、歌詞の内容の変化に和声が見事に対応しています。

一方「月は昇りぬ」ではヴィラネッタを採用し、穏やかで柔らかな、余韻の残る作品となっています。

〈第4部〉

高崎市の中学校に体育教師として赴任して2ヶ月後、クラブ活動の指導中に頸髄損傷を負った星野富弘氏。9年におよぶ入院生活の間や、その後の日々の中から描き出された詩画は、それにふれる人々にすばらしい感動と勇気を与えています。

「花に寄せて」はそれぞれの詩や曲の中から送られてくる作者のメッセージが、やがて一つの方向を見せる……そんな組曲です。

I たんぽぽ

いつだったか
きみたちが空をとんで行くのを見たよ
風に吹かれて
ただ一つのものを持って
旅する姿が
うれしくてならなかったよ
人間だってどうしても必要なものは
ただ一つ
私も 余分なものを捨てれば
空がとべるような気がしたよ

II ねこじやし

思い出の向う側から
一人の少年が走ってくる
あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の
私かも知れない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも
あんなにも嬉しそうに
今に向かって 走ってくる

III しおん

ほんとうの ことなら
多くの言葉は
いらない
野の草が
風にゆれるように
小さなしぐさにも
輝きがある

IV つばき・やぶかんそう・あさがお VII みょうが

木は自分で
動きまわることができない
神様に与えられた その場所で
精一杯 枝を張り
許された高さまで
一生懸命 伸びようとしている
そんな木を
私は友達のように思っている

いつか 草が
風に揺れるのを見て
弱さを思った
今日
草が風に揺れるのを見て
強さを知った

一本の茎が
一本の棒を登って行く
棒の先には夏の空
私も あんなふうに登って行きたい

V てっせん・どくだみ

花は自分の美しさを
知らないから
美しいのだろうか
知っているから
美しく咲けるのだろうか

おまえを大切に
摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者のおまえだったけれど
道の隅で
歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現われるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた

畑の草を一日中むしり
かいこに桑をくれ
夕方ひょいっと出かけてみょうがをとり
それを売っては
弁当のおかずを買って来てくれたっけねえ
いつもしよっぱい こぶのつくだ煮
花の咲いたやつは安くなるからと
花を抜いて売ったことも あったよね
もんべと地下たびの間は
蚊にさされた跡が いっぱいだった
かあちゃん
みょうがを食うとばかになるというけれど
おれは
思い出すことばかりです

VII ばら・きく・なずな -母に捧ぐ-

淡い花は
母の色をしている
弱さと悲しみが
混り合った
温かな
母の色をしている

母の手は
菊の花に似ている
固く握りしめ
それでいてやわらかな
母の手は
菊の花に似ている

神様が たった一度だけ
この腕を動かして下さるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう
風に揺れる
べんべん草の実を見ていたら
そんな日が
本当に来るような気がした

〈第5部〉 合同演奏

「二人の天使が呼びかわす」天使が呼びあっている様子を、8声で表わします。

「朧月夜」日本の春の夜をボンの人達と楽しみましょう。

ボン室内合唱団 (Bonner Kammerchor - Collegium Cantorum)

ドイツ・ボン大学の合唱団で、創立は1956年に遡り、20年前に合併により現在の形になった。中世から現代（委嘱作品を含む）に至るあらゆる時代の無伴奏の作品をレパートリーとしており、とりわけ知名度は高くないが高度な演奏技術を要求する優れた作品を紹介することに重点を置いている。

団員は約40名で、年齢構成には大きな幅があり、団員の半分は学生、半分は社会人である。

当団は毎年ドイツ内外で多数の演奏会を行い、欧州各地への定期的な演奏旅行やさまざまな合唱コンクールでの輝かしい成果によって近年名を高めている。

1986年 アレッツォ国際合唱コンクール（イタリア）1位

1987年 ゴリツィア国際合唱コンクール（イタリア）3位

1989年 ノルトライン・ヴェストファーレン州合唱コンクール（ドイツ）1位

1990年 第3回ドイツ合唱コンクール（シュツットガルト；ドイツ）1位

1991年 トロサ国際合唱コンクール（スペイン）2位

1992年 「ボンの秋」国際音楽祭でヒリアード・アンサンブルと共演（アルヴォ・ペルトの「ミゼレーレ」）

レニャーノ国際合唱祭（イタリア）特別招待

1993年 国際ラジオ放送コンクール“Let the people sing”にドイツ代表として参加

1994年 「ソロモンの雅歌」による様々な時代のモテットをCDに録音；1995年春に完成の予定

指揮者・代表者 Peter Henn (ペーター・ヘン)

1948年、モーゼル河畔キンハイムに生まれる。ケルン音楽大学で音楽教育（ヘルマン・シュレーダー、アルヴィン・パウアーに師事）、カトリック教会音楽（ヴォルフガング・シュトックマイヤー、ブルーノ・ドーレに師事）及び合唱指揮（ヨハネス・ヘムベルクに師事）を学ぶ。ケルン大学ではドイツ文学を専攻。ドイツ国民奨学財団とドイツ音楽協議会の奨学生に選ばれる。数々の著名な指揮者養成コースに参加。現在、ボン市立エルンスト・モーリッツ・アルント中学高等学校の音楽教諭。1983年以来ボン室内合唱団を指導。



京都混声合唱団

1926年、京都在住のプロの音楽家による合唱団として発足。戦時中一時休会したが、1945年に再活動を始め、この時からアマチュア合唱団としてスタートし、今日に至っている。団員の職業は会社員、自営業、教員、主婦、学生と多岐に渡り、合唱を愛する人ならだれでも入団できる。

長い団史のなかで定期演奏会を振り返ると、ヘンデル・バッハ・ハイドン・モーツァルトなどの古典曲から現代作曲家・邦人作曲家まで、宗教曲を中心に取り上げてきた。一方、夏の合宿を兼ねた小演奏旅行ではポピュラー曲など幅広いレパートリーを披露している。

指揮 蔵田 裕行 (くらた ひろゆき)

東京芸術大学声楽科卒業。

東京芸術大学大学院音楽研究科独唱専攻修了。

オーストリア政府給費留学生としてウィーン国立音楽大学に留学。

N・レーヴェ、中山悌一、W・シュタインブリュック、E・ヴェルバ、J・ヴィットの各氏に師事。

20数回におよぶりサイタルや数多くのオラトリオ、オペラに出演。

1991年 京都混声合唱団の常任指揮者に就任。

京都市立芸術大学教授。関西二期会常任理事。日本シューベルト協会理事。

日本フーゴー・ヴォルフ協会同人。

ピアノ 宮北 昌子 (みやきた しょうこ)

京都市立芸術大学音楽部ピアノ科専修卒業。

ピアノを山田淳子、岩淵洋子、マックス・エッガーの各氏に、チェンバロを春山操氏に師事。

ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院夏季国際音楽アカデミーに参加し、セルジオ・ペルティカローリ教授の講座を修了。アカデミーコンサートに出演。



団員募集

京都混声合唱団

数ある京都の一般合唱団の中で最も歴史があり、西洋の宗教大曲を中心とした独自の演奏活動を行ってきました。96年春の創立70周年記念演奏会には、ハイドン作曲 オラトリオ「四季」を管弦楽・京都市交響楽団、会場・京都コンサートホールにて上演予定です。

練習日時：通常練習 毎週金曜日 午後7：00～9：15

ヴォイストレーニング・パート練習を毎月一回 休日の午後に3時間

練習会場：京都府薬剤師会館2階ホール（東山五条上ル東側）

費用：入団費1000円その他、月額団費として

高校生1000円 大学生1500円 一般3000円

連絡先：桂 京造 電話（075）211-3064

指導陣：常任指揮者：蔵田 裕行（京都市立芸術大学教授）

ヴォイストレーナー：三井ツヤ子（京都市立芸術大学助教授）

ピアニスト：宮北昌子